

特 文庫10
7361

博覽新報第一號

本會主意

西垣文庫

爰ニ博覽會ノ義ヲ説ク。夫博覽トハ。縦ニ千古ノ沿革ヲ
横ニ萬方ノ異同ヲ察シ其覽觀スル所溥博廣大ナルヲ云。
試ニ古今ヲ縦ニ稽ル方ヲ云ハ、會場中ニ所有物一二十年
前ヨリ推テ千年以上ニ溯リ時代ニ依テ變換セシ所ニ眼ヲ着ケ古ノ迂遠粗大ナル化
シテ後ノ便利精密ニ赴キ之ヲ考ヘハ則今日ヲル所

博覽新報

ノ物モ亦尚迂遠ナルアツテ之ヲ便利ニ変スヘキユ
夫アラン。是所謂温故而知新ナリ。假令ハ兵器等ニテ
モ古ハ廣予トテ大ナル幅廣キ物ナリシヲ。後ニハ二
ツニ割テ太刀ト為シ。又之ニ槌ヲ鑿テ手輕クシ。或ハ
又之ヲ細クシテ鎗トシ。其柄ヲハ却テ長クシタル杯。
次第々々ニ工夫シテ簡便ニナセル類。古今復ニ異ナ
レリ。右等ハ當時不景氣ノ品ナレド。實物ニ依テ考レ
ハ。大ニ益ヲ得ルヲアリ。廢物ハ廢物ニ付テノ工夫ア

ル物ナレハ如何ナル物ニテモ為ニナラザルヲハナ
シ。是看客ノ着眼ノ各不同ヲ以ナリ。夫蒸氣機關ハ。茶
罐ノ沸騰ニ濫觴シ。大小銃砲ハ藥臼其元祖タリ。試ニ
看ヨ宇宙間斯ク文明ニナリタルモ本一點ノ窮理ナ
ラスヤ。物ニ即テ其理ヲ究レハ。別シテ心識ヲ感動シ。
才智ヲ鼓舞スル者故ニ。其功讀書ニ數倍セリ。又横ニ
萬方ヲ察スルヲモ右ニ同ク。西洋ノ物ヲ以テ東洲ノ
品ニ比シ。南國ノ産ヲ取テ北地ノ種ニ較べ見レハ。其

風土ノ甲乙人民ノ勤惰マデ知ラル、故其善惡ヲ殷
鑒トシテ。我職業ノ妍媸ヲ悟リ。用捨去從ノ宜ヲ得ム。
設使ハ。尾張焼ハ奇麗ナレド。伊万里焼ノ丈夫ニ如カ
ス。九谷ハ旧来名産ナレド。今日不流行ナルハ。是々ノ仔
細アリ依テ向後ハ斯ク致シテ全備ナラム。焼方ハ彼
地ヲ学ビ。染メ付ハ此地ヲ取テ可ナルベシ。杯諸國ヲ
照準致ス。此會場中ナレハ。大ニ自由自在ナリ。此亦
功夫ノ益多キナラズヤ。是ニ於テ職業ヲ務ル人ハ。其

古今東西ヲ縱横ニ熟察シテ。新工夫ヲ用ヒ。新發明ヲ
出シ。專賣ノ徳ヲ得ル。一ヲ心掛ヘシ。其發明ノ品ニヨ
リテハ。一事ノ産業ノミニテモ。終身ノ幸福ヲ保ツニ
足ル。一必定ナリ。又高賣ヲ至トスル人モ。古今ノ消長
ト。東西ノ損徳トヲ。縦考シ横察シ。彼國ヘハ。此品ヲ輸
出セン。彼品ハ。此國ヨリ輸入シテ益アリト。計算シ。龍
斷ノ利ヲ網スベシ。是等皆萬國ノ物ヲ。輻湊セシメタ
ル時ナラテハ出来ス。獨リ此會ノ專ニスル所ナリ。扱

專賣ノ所長

其職業モ商賣モ外國人ヲ對偶故僅眼前ノコノニナ
 ラス。後日ノ注文莫大ナラム。其賣買ノ盛ナル實ニ疑
 ナカルベシ。然レハ是以此會ハ會後進ノ智ヲ開キ藝ヲ
 進メ。國家他日ノ富强ヲ輔ケ。天下ノ公益トナルノニ
 ナラス。工商自己ノ得分多ク。厚生富家ノ資トナルコ
 ニテ決シテ徒ニ珍異ヲ賞翫シ耳目ヲ怡悦スルノ浮
 華虚設ニハ非ル也。兎角御國ノ人々ハ未ダ此會ノ
 事ニ慣ズ。主意ヲ取違ル者アリ。依テ聊數言ヲ述フ。是

亦會社ノ老婆心ノ云

○
 神戸在留ノ佛國人ガントヘール博覽會中當地ニテ
 西洋料理亭相開度昔兵庫縣へ願出同縣ヨリ京都府
 へ御引會ノ上御聽届ニ相成同人名仕ノ内國人二月
 二十九日神戸出立ノ報知アリ

○
 京都府ヨリ

京都府典事西尾為忠

壬申正月廿八日

同

権典事木村正幹

来儿百年澳國博覽

同

権大属明石博高

會御用及亡當春當

同

士等出任过禮輔

地博覽會御用拭被

同

大年寄中

仰付

同

御用達中

同

物産御用掛中

同二月晦日

同

大属關屋生三

博覽會御用掛兼務

同

大属横井忠直

同二月晦日

同

大属木村清質

博覽會二付テノ取

同

大属渡邊廣之

○

同三月朔日

静岡縣士族中山七太郎

當今御座ヲ以博覽會掛

京都府士等在野間安親

○博覽會二付警固方出張并巡邏所

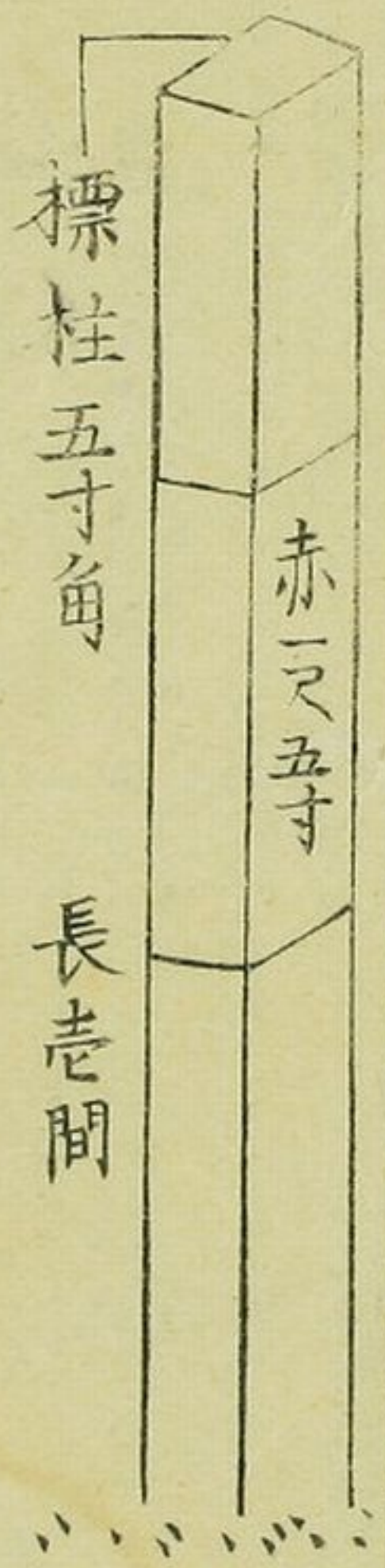
○乙訓郡向日町○伏水京橋○淀小橋○蹴揚○追分

管轄境○下嵯峨材木町○上賀茂○御室門前町○白
 川越ノ内白川村○宇治橋○東九條村○乙訓郡下久
 世村○木津驛○愛宕郡高野村○大阪東街道橋本驛
 以上洛外十七ヶ所

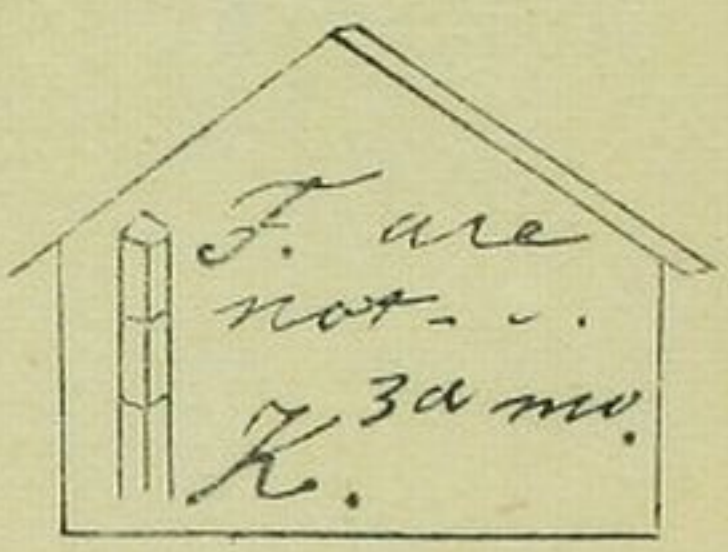
○外國人滯京中管外へ出ルヲ許サル揭示
 并標柱ノ圖



外國人此標ノ外へ
 歩行スヘカラス
 三月 京都府



右管轄境七ヶ所へ建ラル○大和へ出ル 奈良坂○大
 和伊賀へ出ル 笠置○丹波國船井郡 上天引村○同國
 同郡 下大久保村○同國何鹿郡 高津村○同國同郡 猪
 鼻峠○同國同郡 小島村
 又知息院本願寺建仁寺ノ三會場ト淀伏水向日町ノ
 三ヶ所へハ左ノ通ノ札ヲ建ラレタリ



譯二云

如此標示シタル抗ノ外へ

外國人歩行スヘカラス

三月 京都府

下京土番組
寺町四條下町

外國人應接所

大雲院

知息院塔中

華頂宮旧邸

同族宿

良松院

以上五箇所 御用宿公使貴族ノ手當

先光院 求玄院 院院院

同山内

- 二番 三番 四番
- 六番 七番 八番
- 九番 十番 十一番
- 十二番 十四番

以上十一ヶ寺

圓山ノ内

正阿弥 也阿弥

連阿弥

双林寺ノ内

閑阿弥 文阿弥

祇園下河原

瀧本 三井別荘

下村別荘

右十九箇所ハ外國人相對宿

尚此外ニ外客料理人コツク付寢食自辨ノ者へ借ス為ノ

市中ニ五十餘軒ノ家ヲ用意セリ

○引札

日新ノ世ノ面白サ。方多ナル土地トナが圓円クナリ。夜ユル昼ヒル動ク
其上ニ安穩アマンニ住ム億兆億兆ハ皆サカ逆立ノ輕業カネ脩行。三國一
が廢止ヤメニナリ。六大洲ノ端々ハシヲ廻マリ遍マキ電線電線ハ萬里

比隣ノ寢物語其隣國ノ客人ヲ懇切ニスル公法。理
 二循ヒテ牛ヲ解ク。我庖丁ノ手ノ内ヲ先ツ博覽ノ會
 場ト俱ニ開クヤ花ノ春賑々敷御來光偏ニ冀奉ル
 尚々私共義ハ京都府御雇ノ教師佛國ジユリ一先
 生ノ旅館ニテ委シク割烹ノ妙技ヲ授リ此度外國
 人ノ御宿モ一日五十人ツハ下河原ニテ御引受
 可申候。先生ノ召仕センホ夕并ニ長崎人西村喜太
 郎夫婦モ加勢致シ吳通弁モ出來候ニ付萬事不都

合ナク御饗應可仕實ニ澤山ニ御止宿ヲ祈願仕候

錦小路柳馬場東入町

平田久兵衛

杉本長兵衛

小森新兵衛

豊田又兵衛

高倉東入町

小畑藤八

○三月三日入京ノ外國人

佛國

同

大谷平兵衛

マロン

レイモルバチスト

博覽會社

三井源右衛門

小野善助

熊谷久右衛門

千宗左

千宗室

藪内紹智



御書林 并去書齋